

WRMA レスキュー資格講習会 2021 in 御前崎

2021年 11月 1日

- 日 時：令和3年10月30日（土）、31日（日） 9：30～16：30
- 場 所：マリンパーク御前崎
- 参加者：（WRMA 本部）野口、寺田、石橋
（御前崎渚の交番）増田、福井
（水難救済会、シーバード各拠点）土屋、野村、福島、河原崎、田中、鈴木、他
（各地区消防機関）御前崎市消防2名、西尾市消防1名、名古屋市消防2名、他
（一般）数名

2021年10月30、31日の二日間で開催されたWRMAレスキュー資格取得講習会、今回、2日間で延べ38名の参加があった。参加者は公務救難機関、民間救難機関、地元サーファー、行政職員、一般市民と様々な職種の方々と、相互に刺激を受け合える講習となった。

初日の30日は気候も穏やかで、若干の風うねりはあるものの、日光がふりそそぐ、秋晴れの中での開催となった。参加者はそれぞれ取得するレベルに合わせてグループ分けされ、レベル1受講者2班、レベル2受講者1班、訓練参加者1班で各班3~4名の編成となった。それぞれにインストラクターが付いて、4艇の水上オートバイを使用して講習が進められた。レベル1のグループには消防隊員含め、操船そのものに慣れていない者も多かった様子で、まずは操船訓練から。風波とは言え、慣れていない方たちにとっては操船しにくい状況だったようで苦戦している様子が見受けられた。

レベル2の受講者においてはさすがに基本的な操船はできている様子で、艇になれる意味でもレベル1の内容の復習を行ったが、やはり風波の中でのレスキュー手法には手間取っていた。訓練参加のメンバーもレベル1の復習から入ったが、普段から練習会に参加している面々でもあり、迅速ではないものの、今回の参加者の中では一番形になっていた。同じ内容を繰り返し行い、習熟度を高めた後、レベル1の受講者はレベル1のフォーメーションA、Bをレベル2の受講者もレベル2のラウンドA、Bを実施。訓練参加者もレベル2と同様、ラウンド手法の復習を実施。それぞれのレベルで反復して練習を行い、午前中は終了。

午後に入り、午前の復習を軽く行った後、それぞれのレベルのフォーメーションC、Dの練習を行った。CおよびDについては意識なしの要救助者を想定したレスキュー手法となるため、体力も必要となり、受講者の顔にも必死さが伺えた。それに伴い、それぞれの習熟度も増し、一日の講習が終わる頃には、ほとんどの受講者がある程度の形でレスキュー手法ができるまでになっていた。日没間際の時間となり講習は終了、寒さに震える受講者も見受けられたが、誰一人掛けることなく、無事に一日目を終えた。

2日目、前日から継続で参加している方も半数以上おり、2日目のみの受講者も加えて初日と同等の人数での開催となった。コンディショナルには初日以上に風が吹き、海面が荒れている状況となった。波はそれほど大きくないが、うねりが風でつぶされ、非常に操船しにくい中での講習会。操船に慣れていない参加者は普通に航行するだけでも苦勞しており、時折、操船ミスで落水する姿も見受けられた。新しい技術を習得するには難しいコンディションではあったが、受講者はみんな熱心で苦戦しながらも一生懸命、レスキュー手法を繰り返し行って習得に励んでいた。

2日間連続で参加している者の中には疲れもある様子だったが、それぞれに励まし合い、艇の運搬時や手法の中での呼称においても声が絶えることはなく、非常に良い雰囲気の中、講習が進められた。な

なかなか要領が得られず、操船ミスが多発してしまう参加者もいたが、2日目も事故、ケガなく終わることができた。

2日間の講習会を通して、参加者同士、同じ思いを共有することができ、ハードなコンディションにも負けず講習をやり遂げることで良い刺激を受けることができた。インストラクターからは「講習会を受けて資格をもらって終わりではなく、この講習会で得た技術を今後の活動へ活かしてこそそのレスキュー資格である」との言葉があった。まさにその通りであると感じた。

今回、同じ時間を共有することができたメンバーと同じフィールドで活動できることを期待しつつ、私たち自身もレベルを落とすことがないように、実際の現場において今回の講習会で得た技術や知識を活かして活動していきたいと思う。

